

ボックスビール

佐藤さんは毎日帰りの通勤電車に乗るのが楽しみだ。朝の通勤電車は混雑して座ることができないが、40分程なので、何とか我慢はできる。一方、夕方の通勤時間となると、これが一転してまた別の世界が広がるのである。

佐藤さんは尿酸値が高いのとコレステロールや中性脂肪が高いために当院に通院している。大のビール好きで、そのために尿酸値が高い。ひどくなると痛風になる病気である。中性脂肪が高いのもビールのせいだ。脂肪肝を合併している。帰宅後に、奥さんの用意してくれているビールを飲むのが毎日の唯一の楽しみで、家族もこれだけは“お父さん毎日ごくろうさん”の気持ちを込めて、大ビン一本を容認しているわけである。しかし佐藤さんには家族に内緒の楽しみがもう一つあるのである。帰りの通勤電車は仙台発なので必ず座ることができる。ここで彼の世界が始まる。そう、佐藤さんは夕方の帰りの電車で4人掛けのボックス席で友人と共に飲み交わす習慣があって、これを「ボックスビール」と呼んでいるわけである。つまり電車の中で1回飲んで、何食わぬ顔をして、もう一度自宅でもたビールを飲んでいるわけである。家族はこのことを知らないそうだ。これでは痛風は治らないわけである。

一方、伊藤さんは糖尿病の患者さんであるが、彼の楽しみは「新幹線ビール」である。仕事の都合で毎週1回は東京に出張する。新幹線に乗るとき、伊藤さんは、ワ

クワクワしている。発車の合図と共にビールを飲み始めるのだそうで、うるさい奥さんの監視もなく、堂々と飲めるのだそうである。東京に着いた時は出来上がっているわけである。一方東京から帰仙するときは、絶対ビールは飲まないで帰宅するのだそうだ。伊藤さんの場合も家族は知らないそうである。

鈴木さんの場合は、「鬼の居ぬ間のスキヤキ」である。鈴木さんは、糖尿病でインスリン自己注射をしている。食べるのがとても好きで、そのために自分で料理を作ろうと調理師の免許を取得したほどの熱心さである（この熱意を糖尿病の治療に向けていただきたいのですが・・・）。鈴木さんは奥さんが外出した日にスキヤキを何人分も作って一人で食べるのだそうである。調理師さんが作ったのでこれがまた格別においしいのだそうである。こちら奥さんが帰る前にきれいに片づけてしまうので絶対バシないのだそうである。

三人に共通していることは家族に（特に一番心配してくれている奥さん）に内緒のささやかな楽しみであるということである。こうまでしないと生活習慣に関連した病気と向かい合えないのかと思う一方、知らない“ふり”をしている家族の努力も大変なものだと思うわけである。

糖尿病の患者さんがコソコソ家族に内緒で口に食べ物を入れているときは、知らないふりをしている家族の気持ちも考えてほしいものである。